OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『初級日本語』における動詞テ型の整理 ： 中級への橋渡しを目指して、テイル・テアル・テオクを中心に
Author(s)	古川, 由理子
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2008, 6, p. 47-56
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/12592
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『初級日本語』における動詞テ形の整理
－中級への橋渡しを目指して、テイル・テアル・テオクを中心に－

古川由理子

【要旨】

動詞テ形の習得は、学習者が困難を覚える文法項目のひとつである。テ形学習後も、それを用いたさまざまな文型が学習項目として追加され、それに他動詞と自動詞の組み合わせも絡むため、初級後半になって混乱を来たす学習者も少なくない。初級初期の段階で扱うテ形およびその文型と、その後学習されるテ形を用いた文型を、初級後期に関連付け、スムーズな中級への移行につなげることは重要である。本稿では、テイル・テアル・テオクに注目し、それぞれの文型の形式および意味の相違・連関について、学習者が俯瞰できるような提示の仕方を考察する。特に、学習者にとって負担の大きい自他動詞との関連を整理することにより、初級文法で扱うテ形のまとめを提示することを目指す。テイル・テアル・テオク解釈のためには従来、意志／無意志動詞、自他動詞、継続／瞬間動詞と、動詞にまつわるさまざまな概念が導入されている。それらの先行研究に対し本稿は、自他動詞を中心に、テオクにのみ意志動詞という概念を用いることで、3形式に前置する動詞がより簡潔にまとめられることを論証する。

1　はじめに

初級日本語学習者にとって習得が困難な学習項目のひとつが動詞テ形であろう（森山2000）。しかも、動詞テ形（以下、テ形）は、その後の日本語学習に大きな影響を与える学習項目でもある（菊池1999など）。なぜなら、テ形を使った文型がその後、次々に導入され、テ形の形式だけでなく、意味・用法の違いまでも、学習者はそのつど理解していかなくてはならないからである。

テ形を用いた文型はさまざまあるが、本稿では、意味・用法において、特に学習者が混乱を来たしやすい、テイル・テアル・テオクの3形式に絞って論ずることにする。この形式には、初級文法項目で難易度の高い自他動詞が関係するため、学習者にとって大きな負担となる。また、これらの形式は、教師にとっても、中級でより難易度の高い文型を導入する前に、学習者の習得をぜひとも確認しておきたい項目である[1)]。

本センターでは、UEクラス（学部進学前予備教育）において、東京外国語大学編の『初級日本語』を使用している。本稿では、『初級日本語』における上記テ形3形式の扱いに基づき、初級後半の段階でのそれらの整理を試みる。第2章では『初級日本語』でテイル・テアル・テオクがどう扱われているのかを概観し、その問題点を指摘する。そして、第3章で3形式を連関させる方法を考察し、第4章でまとめとして提示する。

2　『初級日本語』におけるテイル・テアル・テオク

2.1『初級日本語』におけるテイル・テアル・テオクの導入順序

『初級日本語』では、まず第10課において、テクダサイの形でテ形が導入される。その後、第11課でテイル、第22課でテアル・テオクが同時に導入される[2)]。

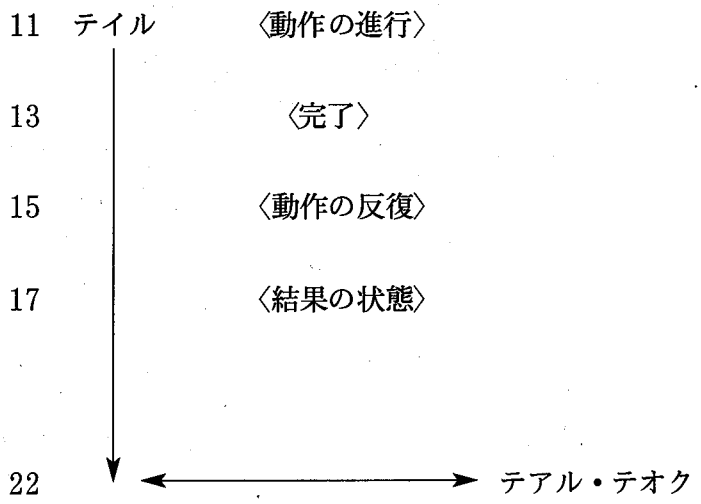
『初級日本語』の場合、動詞の活用に関して言えば、第9課で辞書形とナイ形が同時に導入

され、次の課である第10課でテ形が導入されるため、学習者の負担は重い。この時点では、意味・用法というよりは、教師も形式を定着させるのに心を砕きがちになるようだ。ただ、テ形については次の第11課でテイル・テカラ・テクル（テカエル）が導入され、その後の課でもこれらの既習文型が随時使用され、確認できるようになっている。

テイルには、いわゆる〈動作の進行〉（e.g.「いま、雨がふっています」）、〈動作の反復〉（e.g.「わたしは毎日母の仕事をてつだっています」）、〈完了〉（e.g.「兄はタイに行っています。今、タイにいます」）、〈結果の状態〉（e.g.「けさは空が晴れています」[3]）の意味・用法がある。『初級日本語』では、第11課で〈動作の進行〉、第13課で〈完了〉、第15課で〈動作の反復〉、第17課で〈結果の状態〉が導入されている。さらに、第22課に至って、テアルとの対比で〈結果の状態〉のテイルが再度提示される。このように、テイルの意味・用法はさまざまであるため、この点も学習者にとって大きな負担となる。つまり、テイルには、テ形という形式、テイルの意味・用法という、学習者にとってふたつの困難が含まれているわけである。

ここで、『初級日本語』におけるテイル・テアル・テオクの導入順序を、テイルの意味・用法も含めて示すと、以下のようになる。

（1）　L10　テ形の導入



2.2『初級日本語』におけるテイル・テアル・テオク習得の困難点

学習者はまず、テイルの意味・用法の習得に頭を悩ますことになる。なかでも、〈結果の状態〉がなかなか使えないことは、市川（2005）でも指摘されている。『初級日本語』では、第11課で学習者にとって比較的理解しやすい〈動作の進行〉がテイルの最初の意味・用法として導入されるが、〈結果の状態〉導入までは、第17課まで待たねばならない。第11課での〈動作の進行〉以降、〈動作の反復〉〈完了〉においてはそれほど混乱を来たすことはないように思われるので、問題は第17課〈結果の状態〉導入後である。ここがまず大きなポイントとなるだろう[4]。〈動作の進行〉と〈結果の状態〉の相違は、一般的には、次のように教えられることが多いのではないかと思う。

（2）

継続動詞	＋ テイル	＝	**動作の進行**
ご飯を食べています			
瞬間動詞	＋ テイル	＝	**結果の状態**
ドアが開いています			

もちろん、実際はこのように単純ではないが、初級の段階で学習者の負担をできるだけ減らすためには、この単純化は有効である。ただ、〈結果の状態〉を示す『初級日本語』の例文は、自然現象を表すものが多い。〈結果の状態〉の意味・用法で『初級日本語』に出ている例文は以下のようである。

（3）a．けさは　空が　晴れて　います。
　　b．今日は　雲が　くもって　います。
　　c．山の　上に　月が　出て　います。
　　d．道に　さいふが　おちて　います。
　　e．庭に　青い　花が　さいて　います。
　　f．運動場に　草が　生えて　います。　（『初級日本語』p174）

しかし、これらの例文での「晴れる」や「くもる」などが瞬間動詞（金田一1950）であることは、学習者にとって理解しやすいだろうか。それより、むしろ、実際に電気をつけたり消したりした結果を指差し、「電気がついています」「電気が消えています」の〈結果の状態〉を、「食べる」「話す」などの継続動詞（同上）と対照させて挙げる方がわかりやすいのではないだろうか。学習者にとってはこれらの動詞の方が身近であり、教室で具体的に動作を行なって見せることもできるからである。

次に大きな問題として挙げられるのが、第22課でのテアル・テオク導入時である。『初級日本語』は他の教科書と違い（例えば、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）、『Situational Functional Japanese』（筑波ランゲージグループ））、自他動詞を体系的に扱う課がない[5)]。テイル・テアル・テオクの理解に、自他動詞の概念は欠かせないものであるが、その導入は個々の教師に任されているのが現状である。自他動詞そのものが学習者に大きな負担となる学習項目でもあり、存在文として学習したアル・イルの対立ともあいまって、この課で大きな混乱をきたす学習者も少なくない。テイルのさまざまな意味・用法も含め、既習事項を整理し、それぞれの区別を明確に行なわなければ、これらの文型の定着に支障を招くばかりか、より複雑な文型を扱う中級以降、大きな障害となりかねない。実際、テイルの意味・用法、テイル・テアル・テオクの相違については、本センターUプログラムで毎年行なわれる6月試験、9月試験直前に、必ずと言っていいほど学習者から復習の要望が出る項目でもある。そこで、次章では、この2点について、どのように既習事項を関連させ、整理できるかの提案を行ないたい。

3　『初級日本語』におけるテイル・テアル・テオクの整理

3.1　テイルの整理

まず、テイルの意味・用法について、テアルやテオク導入前に整理しておきたい。前章で述べたように、テイルの場合、学習者にとっては〈結果の状態〉の意味・用法が難しい。〈結果の状態〉の意味・用法導入時には、瞬間動詞・継続動詞という概念を使って単純化するのが得策ではないかと述べたが、初級後半では、自他動詞と関連付けて、再度確認するのが望ましい。自他動詞の復習になるばかりか、次に導入されるテアル・テオクに、自他動詞は欠かせない概念だからである。次のように、他動詞が目的語をマークするヲを取る動詞であることを確認しながら、それぞれテイルの意味・用法を確認するといいだろう。

（4）

A：① **他動詞　＋　テイル　＝　動作の進行**

（彼は）本を読んでいます　←　本を読む

ご飯を食べています　←　ご飯を食べる

② **自動詞　＋　テイル　＝　動作の進行**

（彼は）走っています　←　彼が走る

雨が　降っています　←　雨が降る

B：　**自動詞　＋　テイル　＝　結果の状態**

ドアが開いています　←　ドアが開く

電気がついています　←　電気がつく

この場合、以前導入した継続動詞・瞬間動詞との関係も補足する必要があるだろう。なぜなら、（4）A①の他動詞の場合は、継続動詞も瞬間動詞も使えるからである。

（5）A①1：彼は今、勉強しています　＝　継続動詞

A①2：彼は今、電気をつけています　＝　瞬間動詞

しかし、A①2は状況としてかなり稀な状態であり、解釈にそれなりの文脈を必要とする[6]。ただ、「動かす」など、継続動詞か瞬間動詞か解釈が微妙なものも多数あるため、継続動詞か瞬間動詞かということは、〈動作の進行〉か〈結果の状態〉かの典型的な用法を見分けるための便宜的な解釈にすぎないことを、この段階で学習者に簡単に説明してもいいだろう。いずれにしても、A①2はそれほど一般的ではないという意味で、クエスチョンマークをつけて学生に提示するのもひとつの方法である。

さらに、Bの場合も次のような注意が必要である。

（6）B1：彼は今、中国に行っています。日本にいません　〈結果の状態〉

B2：彼は中国に何回も行っています　〈動作の反復〉[7]

『初級日本語』では、（6）B1のような意味・用法は第13課で、（6）B2は第15課で学習される。テイルに関するそれぞれの例文をすべて挙げる。

〔第13課〕

（7）a．兄は　タイに　行って　います。　今、　タイに　います。
　　マナさんは　日本に　来て　います。　今、日本に　います。
　　ジョンさんは　国に　かえって　います。　今、国に　います。

　　b．あなたは　ジョンさんの　じゅうしょを　知って　いますか。
　　いいえ、知りません。

　　c．タンさんは　何色の　ぼうしを　かぶって　いますか。
　　タンさんは　みどり色の　ぼうしを　かぶって　います。
　　マリアさんは　ピンクの　スカートを　はいて、黄色い　ハンドバックを
　　もっています。　（『初級日本語』p111）

〔第15課〕

（8）a．わたしは　毎日　母の　仕事を　てつだって　います。
　　b．学生は　毎しゅう　発音の　テストを　受けて　います。
　　c．わたしは　毎年　ふじさんに　登っています。　（『初級日本語』p129）

第13課のａの３文が（６）Ｂ１に、そして第15課の用法が（６）Ｂ２に相当するが、関連付けて導入されるわけではないので、（６）Ｂ１・Ｂ２のように同じ動詞を使って意味の相違を確認し、まとめておく必要があるだろう[8)]。

3.2　テイルとテアル

『初級日本語』第22課では、まずテオクが導入され、次にテアルが導入される。その後、テイルとテアルを対に用いた例文が使用され、テイルとテアルの違いを確認できるようになっている。しかし、本稿では、テイル・テアル・テオク３形式すべて導入後の整理という観点から、まず、テイルとテアルの相違について検討する。

『初級日本語』でのテイルとテアルを併用した例文は以下のとおりである。

（9）a．風がふいて、戸が開きました。今、戸が開いています。
　　b．暑いから、マナさんは戸を開けました。今、戸が開けてあります。

　　c．風がふいて、火が消えました。今、火が消えています。
　　d．危ないから、わたしは火を消しました。今、火が消してあります。
　　（『初級日本語』p198）

文法指導書では、テイルの前が無意志動詞、テアルの前が意志動詞であると説明されている。しかし、前節（４）Ａ②で見たように、学習者は既に「走る」などの動詞を自動詞として把握している。自他動詞（例えば「電気がつく」「電気をつける」）において、学習者は自動詞に

動作主が存在しないという認識をしているため、「走る」や「行く」という自動詞が意志動詞であるという説明をすると、混乱を招く要因になる。「走る」や「行く」が意志動詞かどうかという判断も微妙[9]である。しかし、「走る」や「行く」の自動詞を使ったテアル構文も可能である。

(10) a．決勝に備えて、軽く走ってある。
　　b．高速道路に備え、トイレに行ってある。

このようなことから、テアル導入においては、動詞が意志的か無意志的かというより、自他動詞を用いて説明する方がより包括的だと考える。（4）A②の自動詞の場合のみ、動詞が意志的（e.g.彼が「走る」）か無意志的（e.g.雨が「降る」）かによってテアルの使用が分かれる。動詞が無意志的な場合、テアルが不可だということ、また、（4）Bの場合もテアルにならないことを説明すればよいだろう。

(11)

A：① **他動詞 ＋ テアル ＝ 結果の状態**
本を読んであります ← 本を読む
ご飯を食べてあります ←ご飯を食べる

② **自動詞 ＋ テアル ＝ 結果の状態**
意志的⇒（彼は） 走ってあります ← 彼が走る
無意志的⇒ ×雨が 降ってあります ← 雨が降る

学習者の中には、存在文で学習したアルとイルを関連させ、アルについては理解する（「車がとめてある」は車がトメルという状態で存在している）ものの、イルで混乱する場合がある。テアルが〈結果の状態〉であることを理解するのに、存在文のアルとの関連は有効であるが、イルだとそうはいかない。存在文ではガ格でマークするところが、テイル・テアルではヲでも可能であるため、ここでは、別の文型として学習させる方が望ましい。また、（4）B①（ドアがあいている）と（11）A①（ドアがあけてある）の意味の区別が学習者には難しいようである。この区別の理解のためには、テオクとテアルの相関を示すことが重要である。

3.3 テアルとテオク

学習者には、〈結果の状態〉を示すテイルとテアルの意味の相違が理解しにくいようである。その理解を助けるものとして、テアルとテオクの相関を最後に示したい。

『初級日本語』で導入されるように、テアルとテオクの意味の違いを明確にするには、テオク→テアルの対の例文が有効であろう。普通、テオクの前には他動詞が用いられる。『初級日本語』の例文をひとつ挙げる。

(12) a．友だちが来るから、へやに花をかざっておきました。

b．友だちのために、きれいな花がかざってあります。　（『初級日本語』p197）

ただし、前節でも述べたように、意志動詞であれば、テオクの前には自動詞も使うことができる。例えば、（11）A②に対応する次のような例文である。

（13）a．（決勝に備えて）軽く走っておく。
　　b．（時間がないかもしれないので）先に風呂に入っておく。

もちろん、この場合、これに対応するテアルも可能である[10]。

　　c．（決勝に備えて）軽く走ってある。
　　d．もうお風呂に入ってある。

市川（2005）では、このテアルについて「準備の状況を表す」とし、〈結果の状態〉としてのテアルとは区別している。また、〈準備の状況〉のテアルにはガをとる場合とヲをとる場合があるとして、次の例を挙げている。

（14）a．私の家には胃の薬がいつも置いてある。
　　b．ホテルを予約してありますから、心配しないでください。（市川2005：p213）

この場合、これまでのAとBに基づいて考えると、Bはテアルにもならないので、テオクにもならない。一方、Aの場合は、②において意志動詞か無意志動詞かが重要になる。前節同様、「走っておく→走ってある」は〈事前の準備〉として可能であるが、「雨が降っておく→降ってある」は不可能だからである。

（15）

A：① **他動詞　＋　テアル　＝　結果の状態**

本を読んであります

〔（彼が）本を読んであります　←　本を読む〕

薬が置いてあります

〔（彼が）薬を置いてあります　←　薬を置く〕

② **自動詞　＋　テアル　＝　結果の状態**

（彼は）　走ってあります　←　彼が走る

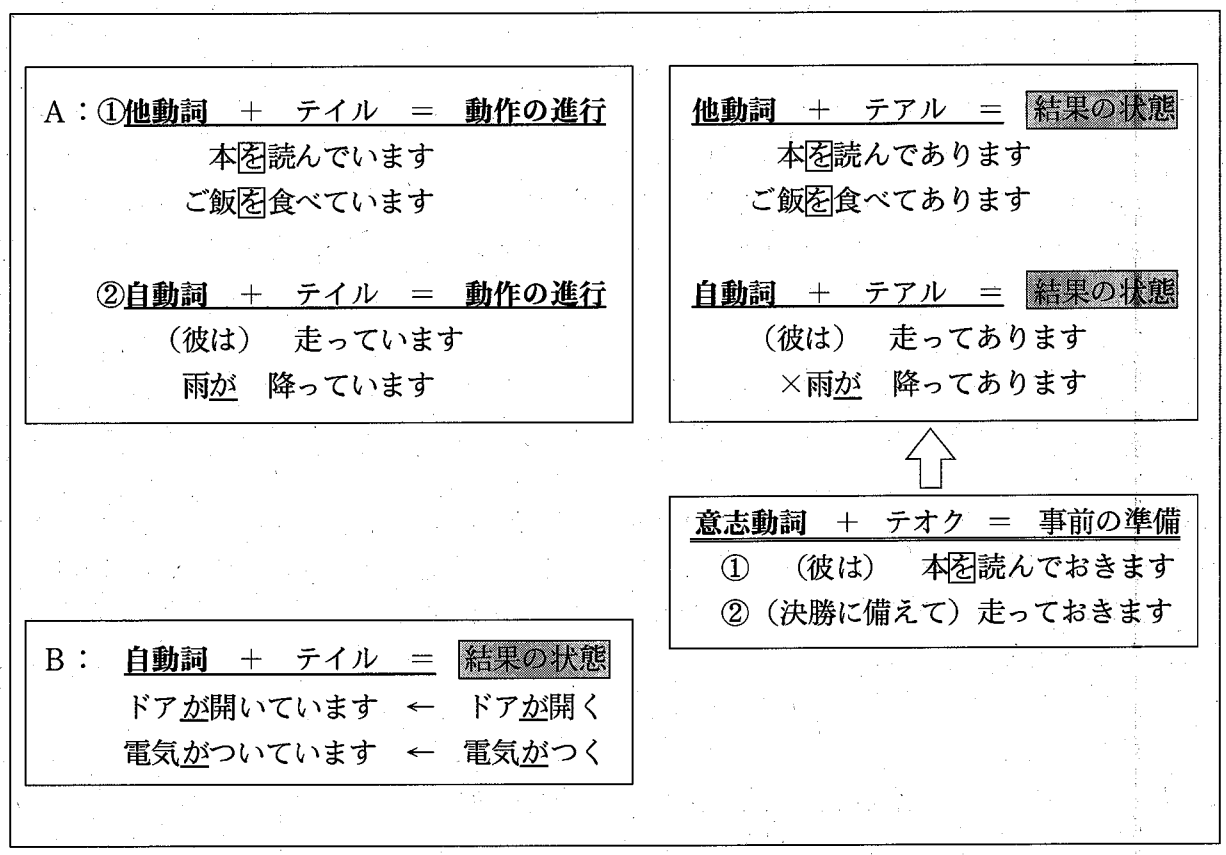
↑

	意志動詞　＋　テオク　＝　事前の準備
①	（彼は）　本を読んでおきます
	薬を置いておきます
②	（決勝に備えて）走っておきます

ここで、（15）A②のような意味・用法は、初級でとりたてて教える必要がないとも考えられるだろう。その場合は、より単純化し、テアル・テオクに関しては、（15）A①・Bのみを扱えば事足りる。学習者にはその方が負担が少ないであろう。

4　まとめ

これまで検討してきたことを1つにまとめると、次のように示すことができる。



このようにテイル・テアル・テオクの意味・用法を自他動詞との関連で示すことにより、学習者は個々に学んできたそれぞれの形式の意味・用法、およびテイルの複数の意味・用法を、全体として俯瞰的に捉えられるのではないだろうか。さらに、学習者が理解しにくい〈結果の状態〉を表す形式が、テイル・テアルの2形式に及ぶことの整理にもなるのではないかと考える。意味と形式が一対一対応になっていないため、学習者にとっては、習得が特に難しいのであろう。

テイル・テアル・テオク解釈のためには、意志動詞／無意志動詞、自動詞／他動詞、継続動詞／瞬間動詞と、動詞にまつわるさまざまな概念が導入されるが、最終的には自他動詞を中心に、テオクに関してのみ意志動詞という考え方を使用することで、3形式の前に置かれる動詞のまとめとすることができる。

5　今後の課題

本稿では、初級学習者が習得に困難を覚えるテ形の３形式、テイル・テアル・テオクの意味・用法を、中級への橋渡しに向けて、初級後半でどのように関連付け、全体としての理解につなげるかということを考察した。本センターUプログラムでは、大学進学という目的のもと、１年間で効率よい日本語教育が求められている。『初級日本語』はその目的のために編集された教科書であると言ってもいい。この他にも、初級後半に既習事項を整理し、中級へ向けての復習という形でまとめておくべき文型が多々あるだろう。学習者のニーズに応える形で、今後、それらを検証していきたい。

また、本稿の提示したテイル・テアル・テオクに関するまとめが、初級後半の学習者の理解の一助となるか、学生の反応や試験などのフィードバックにおいて、実際に確認していきたい。

注

1）教師用指導書などで、条件形や敬語、授受表現などの教え方のポイントやまとめはかなり説明されている（例えば、野田1991、友松・和栗2004など）が、テイル・テアル・テオクをまとめて解説したものは管見の限り、ほとんどない。

2）テ形を使った他の文型は、第14課でテモイイ・テモカマワナイ・テハイケナイ・テミル、第17課でテミル、第21課でテモ、第22課でテアゲル・テモラウ・テクレル・テイタダク・テクダサル、第24課でテシマウ、第25課でテバカリイル・テイルアイダが導入される。

3）いずれも『初級日本語』の例文。また意味・用法については他にもあるが（市川2005）、ここでは『初級日本語』で扱われているものに限る。尚、本稿では〈完了の否定〉（まだ昼ご飯を食べていない）を表す否定文であるテイナイは扱わない。

4）なお、文法指導書では、〈結果の状態〉の説明において「無意志の自動詞を使う（日本語訳：筆者）」として、「けさは空が晴れています（下線：筆者）」などの例文を挙げている。その後、Cf.として第11課の「雨がふっています」を例示しているのだが、この例文の動詞も「無意志の自動詞」であるため、〈動作の進行〉との違いが明らかでない。学習者の混乱を招くと思われる。

5）第12課の文法指導書で「他動詞」ということばが出てくるが、それについての説明は特にない。

6）Ａ２の文を解釈するためには、「電気をつけて回っている」あるいは、「その電気をつけるのには時間を要する」といった文脈を読み込み、瞬間動詞というよりは継続動詞という理解を行なうのかもしれない。

7）寺村（1991）などの考えによれば、このような意味・用法も、アスペクト的に結果の状態と解釈することができる。

8）15課の場合は、「毎日・毎週・毎年」などの副詞が結果状態／動作の反復という解釈を決定づけているともとれるので、副詞の意味を確認することでテイルの解釈につなげてもよい。

9）動作主が人間や動物であれば意志動詞の意味合いが強いだろうが、「海岸線が走る」「夏が行く」など無意志動詞的な用法もあるからである。

10）人によってはこれらの文には違和感を覚えるかもしれない。

〈参考文献〉

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）松岡弘監修『初級を教える人のための日本語文法ハンドブッ

ク』スリーエーネットワーク
庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）白川博之監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
市川保子（2005）『初級日本語文法の教え方のポイント』スリーエーネットワーク
菊池康人（1999）「動詞の活用をどう教えるか-日本語教授者のための知識・教授方針の整理」『東京大学　留学センター紀要』9号 pp.29-53
金田一晴彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』15
塩川絵里子（2007）「日本語学習者によるアスペクト形式「テイル」の習得－文末と連体修飾節との関係を中心に－」『日本語教育』134号
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
東京YMCA日本語学校編（1992）『入門日本語教授法』創拓社
友松悦子・和栗雅子（2004）『初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク
野田尚史（1991）『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
森山新（2000）「韓国人日本語学習者の学習初期の動詞習得過程」『日本学報45』pp.85-102

〈参照教科書〉

スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語』初級Ⅰ・Ⅱ本冊
筑波ランゲージグループ（1991-2）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』VOLUME1～3：NOTES（凡人社）
東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『初級日本語』

（ふるかわ　ゆりこ　本センター非常勤講師）